

玄海町に被害をもたらす地震としては、内陸部の活断層による地震があります。特に玄海町に近い竹木場断層による地震では、震度6強以上の揺れが想定されます。いつ起きるかわからない地震に備えておきましょう。

- 地震発生前に
行うこと**
- ▶ 危険な場所の確認
 - ▶ 避難場所の確認
 - ▶ 避難経路の確認
 - ▶ 防災訓練に参加 等

事前に確認

- 情報の収集方法 P3, 4
- 避難に備えて P5, 6
- 地震について P13, 14
- 地震ハザードマップ
竹木場断層を震源 P15, 16
玄海町直下を震源 P17, 18
- 避難場所等一覧 P33, 34
- 非常持ち出し品 裏表紙

**地震が発生!!
身の安全確保!!**

- 地震発生後に
行うこと
避難行動**
- 避難時の注意点**
- ▶ 出口を確保する
 - ▶ 門や塀には近寄らずに避難する
 - ▶ 頭上からの落下物に注意する 等

これ避難

- 避難に備えて P5, 6
- 地震発生時の行動 P19, 20
- 避難場所等一覧 P33, 34

地震発生のしくみ

地球の表面は、プレートと呼ばれる厚さ数10kmの岩盤で覆われています。プレートは1年に数cmくらいの速さで動いており、この動きが地震を発生させるエネルギーとなります。

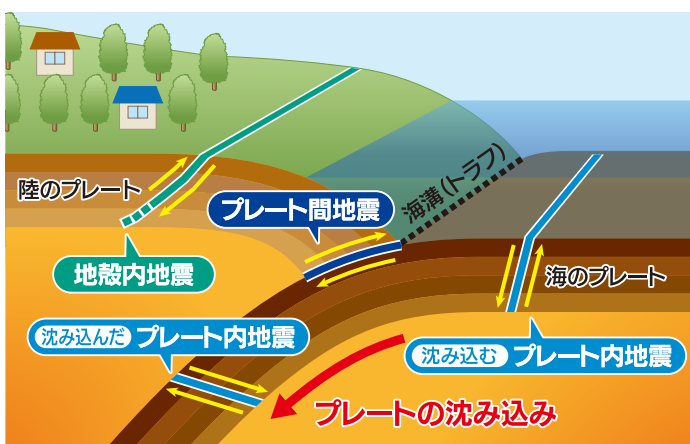
地震の起こり方は大きく分けて「内陸型地震」「海洋型地震」の2つに分類され、発生メカニズムの違いによって以下の3タイプに分けられます。

内陸型 地殻内地震(活断層型地震)

内陸部の比較的浅い地殻に生じる、いわゆる直下型の地震で、「活断層型地震」とも呼ばれています。プレート運動によって生じる圧縮力によって蓄積されたひずみエネルギーを解放するため、浅い陸のプレートで断層運動を生じるもので、プレート間地震に比べて規模は小さくなりますが、発生源に近いので揺れが大きくなります。また、ひずみの蓄積するスピードがプレート間地震に比べてはるかに遅いため、特定断層における地震の発生間隔は数千年から数万年とされています。

海洋型 プレート間地震(海溝型地震)

日本列島の太平洋岸のプレート境界で発生する地震で、「海溝型地震」とも呼ばれています。規模の大きなプレート間地震の発生間隔は、数十年から数百年と比較的短く、発生源が海底下の浅いところにあるため津波を伴う場合があります。



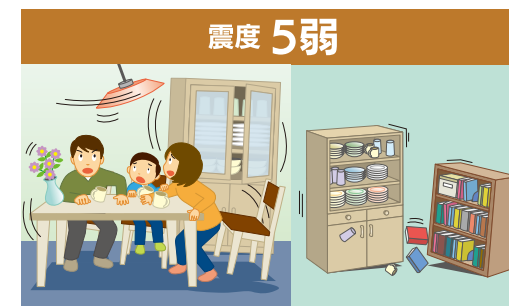
海洋型 プレート内地震

海のプレート内部で発生する地震です。海のプレートが陸のプレートの下に沈みこんでいる部分のうち、深部が破壊されることにより発生します。

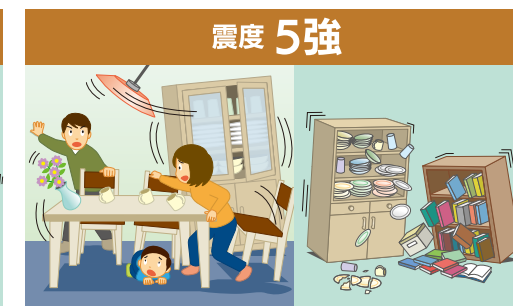
震度と揺れの状況



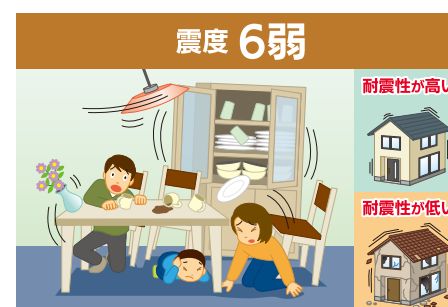
- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が倒れることがある。



- 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。



- 物につかまらないうと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。



- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



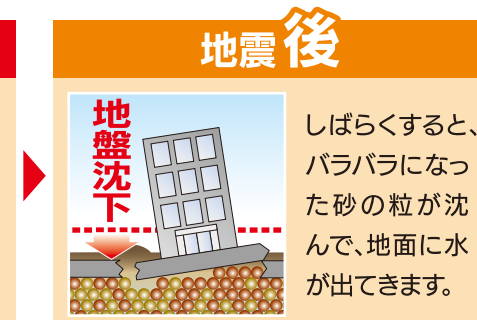
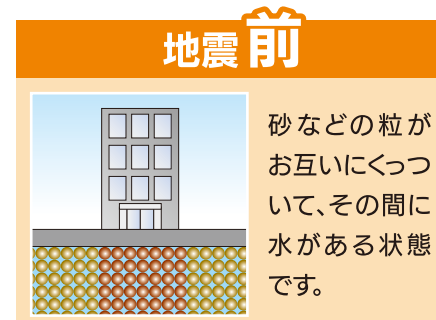
- はわなないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

液状化にも注意が必要です 液状化とは?

海岸沿いや川沿いの低地では、地下水位が高く、砂地盤などがゆるく堆積している所も多くあります。地震により、激しく揺られると、土の粒子が水と混ざり合って、一時的に液体のようになります。これを液状化現象といいます。

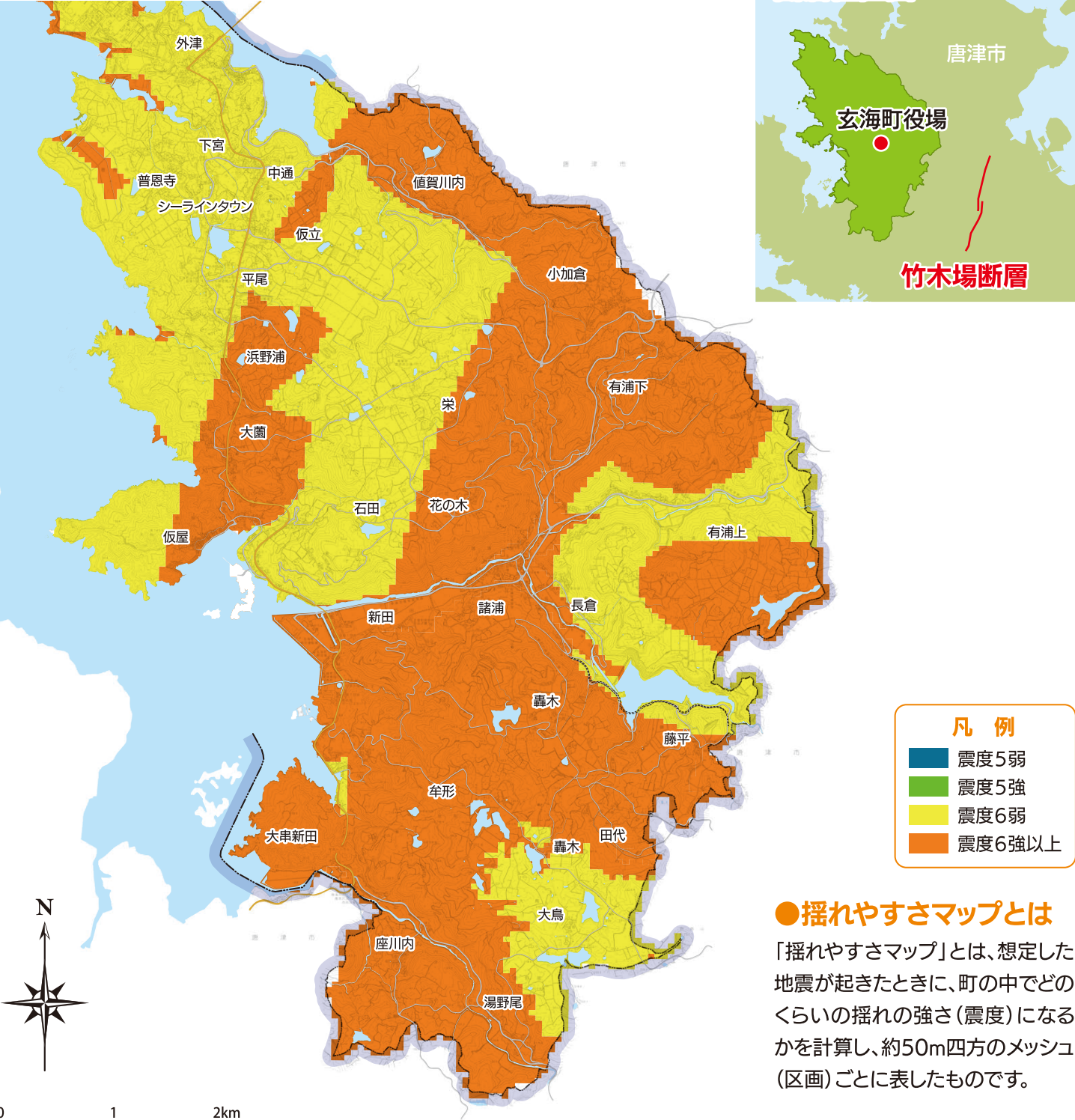


液状化がおこると、次のような被害が発生します

- ① 地盤の支持力が低下することにより発生する、建物等の沈下や傾斜
- ② 噴砂(水と砂が地中から噴き上げてくる現象) などによる被害
- ③ 地下に埋設された水道管・ガス管・電線の損傷による、ライフラインの寸断

揺れやすさマップ 竹木場断層を震源とした場合

玄海町に大きな影響を及ぼす竹木場断層が活動した場合を想定しています。

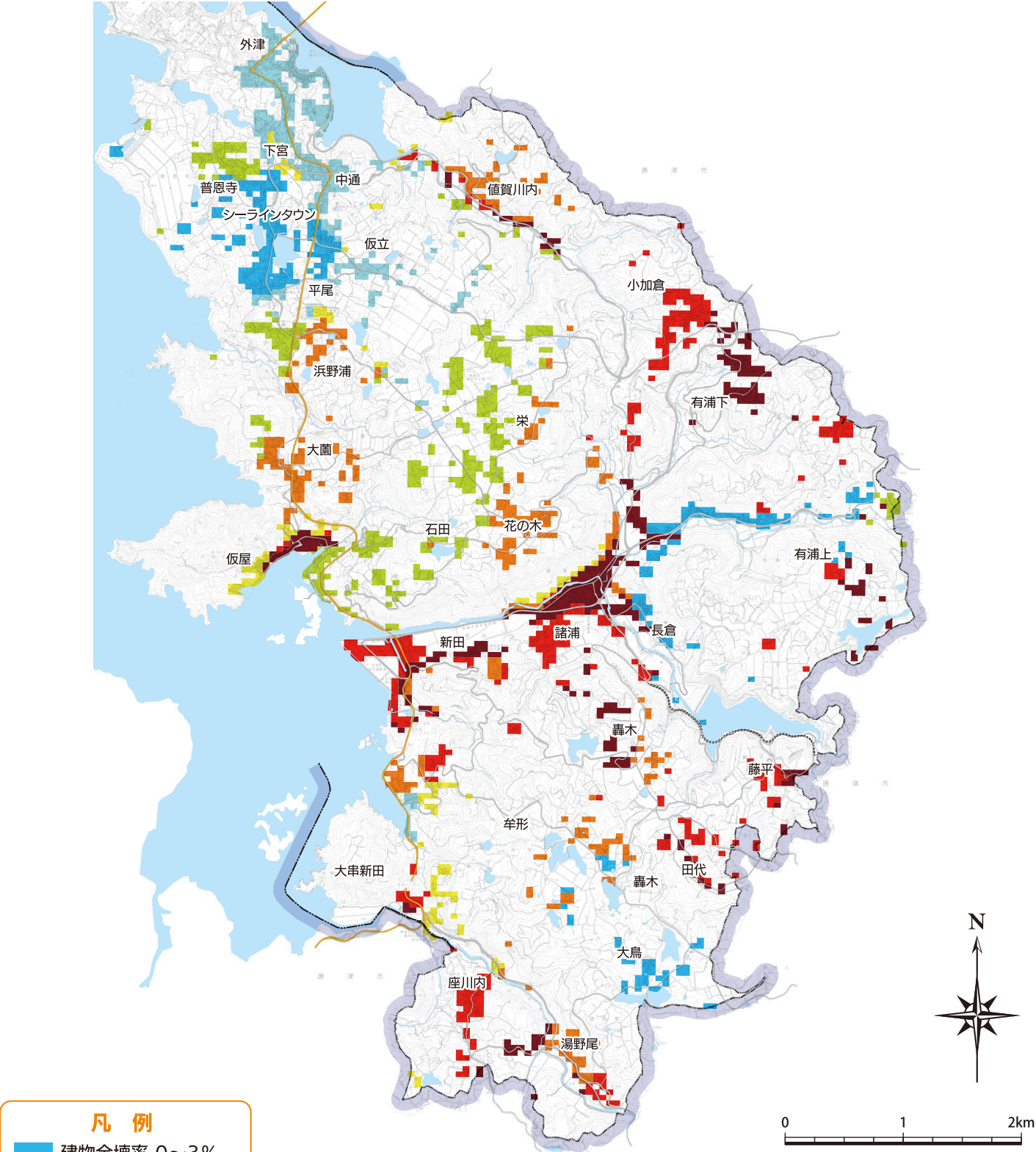


●マグニチュードと震度

“マグニチュード”とは、地震そのものの大きさ(地震の規模)を表す単位です。“震度”とは、実際の揺れ方の強弱を段階的に表したもので、地震の規模ではありません。マグニチュードが小さくても、震源に近ければ震度は大きく、また、その震度は地盤の条件によっても異なります。

危険度マップ 竹木場断層を震源とした場合

玄海町で特に震度が大きくなる「竹木場断層」を震源とした地震が発生した場合の建物全壊率を表しています。

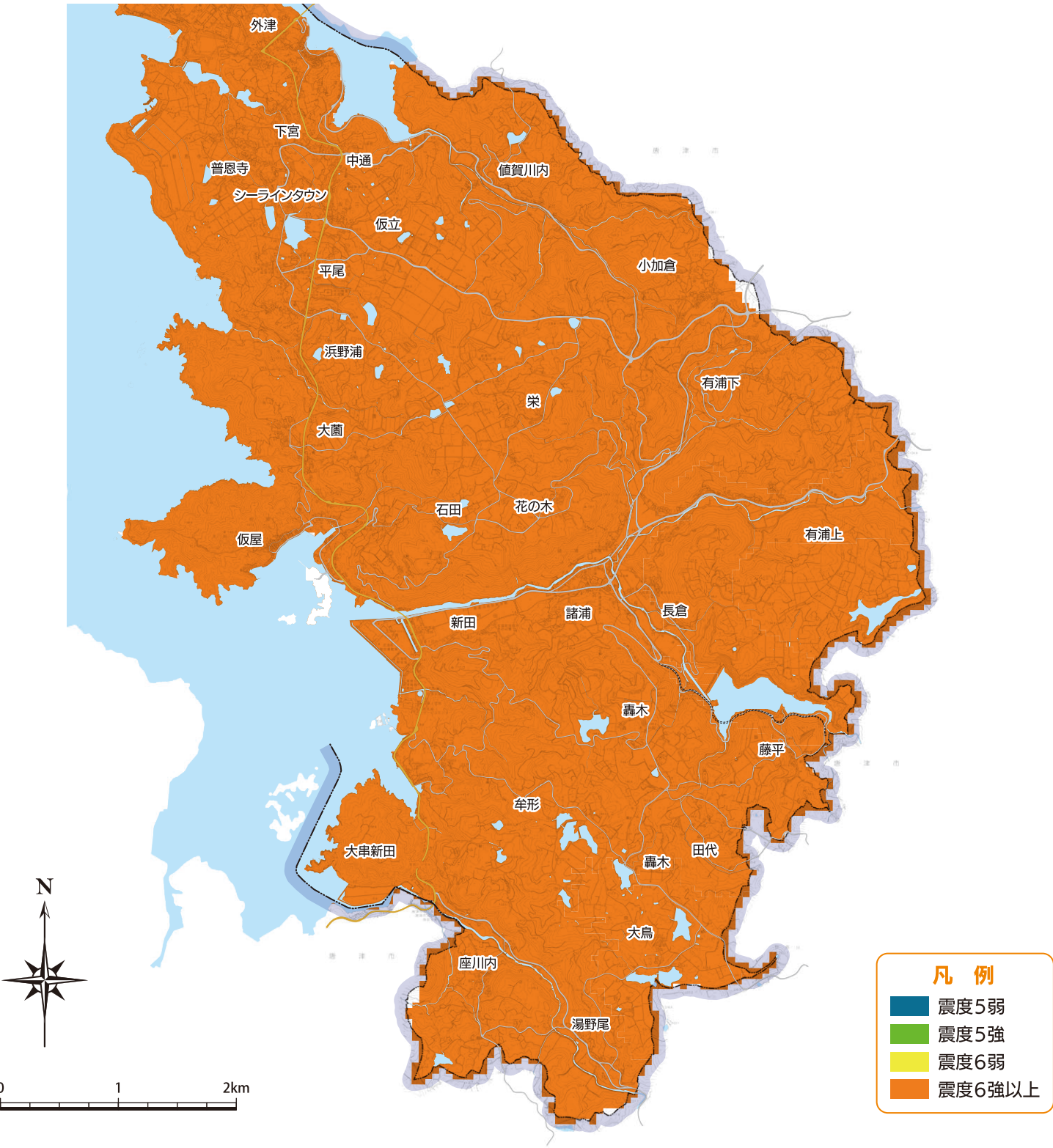


震源	竹木場断層
震源の深さ	3km
地震の規模	マグニチュード6.9
断層の長さ	約5km
断層までの距離	(町役場から)南東に約5km

※竹木場断層による地震は近年発生していません。

揺れやすさマップ 玄海町直下を震源とした場合

玄海町の直下を震源として地震が起きた場合を想定した「全国どこでも起こりうる直下の地震(マグニチュード6.9)」を想定地震としています。

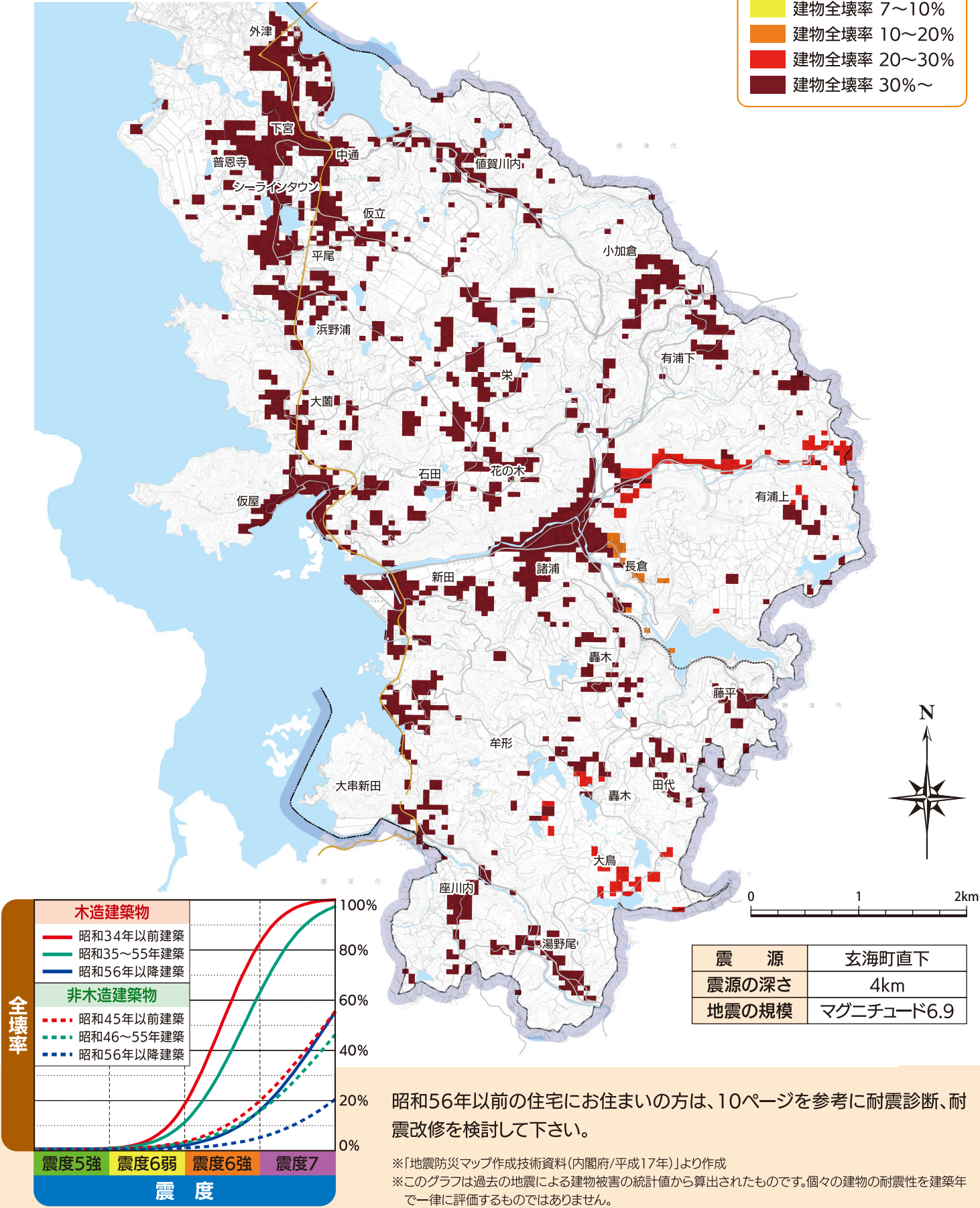


震度と建物全壊率の関係

右のグラフは過去の地震による建物被害の統計から、震度と建物(構造・年代別)の全壊率の関係を導き出したものです。古い耐震基準をもとに建てられた建物ほど全壊率が高く、特に震度6弱～6強から急激に高くなり始めます。震度7では昭和56年5月以前の旧耐震基準により建てられた木造建築物の全壊率は90%以上になると想定されます。

危険度マップ 玄海町直下を震源とした場合

玄海町直下を震源とした地震が発生した場合の建物全壊率を表しています。



地震が起きたとき、とるべき行動

地震発生時には、あわてずに、まず身の安全を確保しましょう。また、日本海沖で地震があったときは、**強い揺れ**を感じなくても、**津波が来襲することがあります**。津波警報や津波注意報の発表を聞いたら、直ちに高台等に避難してください。

緊急地震速報

- **地震発生**
- **1～2分後** **安全の確認**
- **3分後** **避難の準備**
- **5分後** **避難の開始**
- **10分後** **避難施設へ**
- **～3日後**
- **避難生活では**

- 周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全と逃げ道を確保する。
- 揺れがおさまったら火の元を確認し、出火している場合は初期消火をする。
- 靴を履き、ガラス片などから足を守る。
- 非常持ち出し品を手元に用意する。
- 家族の安否を確認する。
- テレビ、ラジオなどで状況を確認する。
- 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める。
- 家屋倒壊などのおそれがある場合には避難する。
- 海岸にいるときに強い地震が発生した場合や、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ、急いで安全な場所に避難する。
- 近所の安全を確認、必要に応じて、消火・救出活動に協力する。
- 安全な場所に移動してから、正確な情報を確認する。
- 間違った情報やうわさ、デマに惑わされないように注意する。
- 生活必需品は備蓄でまかなう。
- 壊れた家には入らない。
- 引き続き地震に警戒する。
- 自主防災組織を中心に行動する。
- 集団生活のルールを守る。
- 助け合いの心をもって行動する。

緊急地震速報を見聞きしたら…

「緊急地震速報」は、地震によって大きな被害が出ると予想される地域を対象に、揺れが始まる前にテレビ・ラジオ・防災行政無線や携帯電話(対応機種)などからみなさんに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



**車で避難
しないように!**

地震発生時は、消防車などの緊急車両の通行を確保することが大切です。みんなが車を使って避難すると、緊急車両や避難する人たちの邪魔になり、混乱を大きくしてしまいます。山間部の土砂災害危険地域や歩行困難な高齢者や病人のいる家族など、どうしても車を使わなければならない場合以外は、徒歩で避難しましょう。

屋内にいたら

自宅では

- テーブルやベッドの下などにもぐって身を守る。適当な場所がないときは、手近のクッションなどで頭を保護する。
- 料理中は、可能ならすぐに火を消す。キッチンには食器棚や冷蔵庫など危険が多いため、できるだけ早く離れる。
- 大きな揺れがおさまったら、すぐにドアや窓を開けて逃げ道を確保する。

デパート・スーパーでは

- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。柱や壁際に身を寄せ、手荷物で頭を守る。
- あわてて出口に殺到するとパニック状態になることもあり危険。店員の指示に従って行動する。



学校・勤務先では

〈学校にいるとき〉

- 先生や校内放送の指示に従う。
- 教室にいるときは、すぐ机の下にもぐり、机の脚をしっかりと持つ。
- 本棚や窓から離れ、安全な場所に移動する。

〈職場にいるとき〉

- 窓際やロッカー、資料棚などから離れて、机の下などに入り身を守る。
- 揺れがおさまったらガス湯沸かし器などのスイッチを切るなど、火元を確認する。



屋外にいたら

路上では

- 手荷物などで頭を守り、広場などへ移動する。
- 繁華街ではガラスや看板などの落下物に注意。住宅街ではブロック塀や門柱から離れる。
- 自動販売機の転倒にも注意する。
- 落ちるおそれを想定して、橋からはすぐに避難する。



車の運転中は

- 急ブレーキは事故のもと。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停止してエンジンを切る。
- 揺れがおさまるまでは車外に出ず、カーラジオなどで情報を確認する。
- 車を離れるときは車検証など貴重品を持ち、キーはつけたままでロックはしない。



海岸・がけ付近では

- 海岸にいたら直ちに高台や近隣の高い建物や、指定の避難場所へ逃げる。
- がけ付近にいたら、崩れる危険性のある場所からすぐに離れる。

